

News Letter

ニュースレター

2022.8.31
Vol.1

CONTENTS

- P.2-3 Pick up NPO
・NPO法人市民活動ネットワーク相馬
・特定非営利活動法人船引フォーラム
- P.4-5 災害から学ぶ防災
- P.6 チャレンジインターンシップ開講式レポート
- P.7 ・年間講座案内
・経営者ゼミ今年度の募集について
- P.8 ・ほっと一息ブレイクタイム～浜通り篇～
・助成金情報

今年度のサポセン事業をご紹介します!

NPO強化による地域活性化事業 「NPO活動促進事業」



昨年度の情報交換会の様子

本事業では今年度も運営力を強化する経営者ゼミでNPOの組織力を強化するとともに運営に必要な基礎知識や応用力をアップするための各種講座の開催や情報発信や各自治体・中間支援センターとの情報交換会を行うことで、組織基盤やネットワーク強化に取り組みます。また、NPOをはじめとする多様な主体が一体となって地域課題の解決策を考え、資源やノウハウを獲得するワークショップの開催や税理士・行政書士・社会保険労務士などの専門家による無料相談を行ってまいります。

NPO強化による地域活性化事業 「チャレンジインターンシップ事業」

コロナ禍が続いていますが、今年度もオンライン活動を取り入れた柔軟なスケジュールングで実施しています。新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで、30名のインターン生が受入れ先のNPO法人17団体で法人の活動や、地域の課題解決について学びます。

また、インターン生同士の意見交換や交流を目的として全2回の情報交換会をそれぞれZoomと対面で開催します。さらに、インターンシップ活動に携わっているNPO法人も、法人の取り組みや活動状況などの情報共有を通じて、残りの活動の充実及び各法人の発展を図るため1回の情報交換会を開催します。



昨年度の活動の様子

「NPO、企業等との連携・協力事業」及び 「ふるさと・きずな維持・再生支援事業事務業務」

「NPO、企業等との連携・協力事業」(マッチング事業)は今年度も事前講座を経てマッチング会を実施致します。SDGsの取り組みからも見られるように企業の社会貢献への関心が高まっている中、NPOが企業との連携によって活動の場を広げて行けるよう、共に学び実践してまいります。

また「ふるさと・きずな維持・再生支援事業」では、現在は一次募集で採択を受けた12件の事業が行われており、9月からは二次募集で採択された事業も開始となります。サポセンでは採択された事業が円滑に進められるように、相談対応や会計処理のアドバイスなどを行います。



昨年度のマッチング会の様子



**NPO法人
市民活動
ネットワーク相馬**

相馬市

さとばたけ
相馬アムウェイハウス



<https://satobatake.fc2.net/>



地域の歴史とこれからの未来を担っていく！

**特定非営利活動法人
船引フォーラム**

田村市

2階がサロンの
会場です



住み慣れたまちで安心して暮らし続けるための居場所づくり！

今年度は新たに
落花生の種を
蒔きました。



シンガーソングライターの
門馬よし彦さんをお招きして
生ライブ！



顔を合わせると、
会話が弾みます



運動で、
健康づくり！



NPO法人市民活動ネットワーク相馬は、東日本大震災をきっかけに2012年に設立された団体です。設立当初は任意団体として発足し、大地震、大津波、原発事故の被害に遭った相馬地区の歴史あるお酒や焼き物等の文化、伝統的な地場産品を残していきたい・復活させたいという思いから、主に歴史文化保存を目的として震災復興に関わる様々な活動を行ってきました。

昨年度、震災で被災した方々のコミュニティ交流の場として日本アムウェイ社から施設を正式に譲り受けたことを機に、歴史文化保存の活動だけではなく地域の様々な支援を行ってきたいという思いから団体名を「相馬歴史文化保存会」から、現在の名称である「市民活動ネットワーク相馬」に変更し、交流施設「さとばたけ相馬アムウェイハウス」を拠点に活動を行っています。

さとばたけ相馬アムウェイハウスではこれまでの活動に加え、地域の子どもの学習塾やパソコン教室等、地域住民の学びの場として活用されています。また、施設の側には畑もあり、農業体験や収穫した作物を使用した調理体験をすることも可能です。また、音楽イベントや映画上映会など、様々な催しも行われています。

代表理事の畠中さんは、今後はフードバンク事業に力を入れていきたいと考えているそうです。食糧問題は世界的に深刻な問題となっていますが、日本では食品ロスが課題となっています。畠中さんご自身も農家の出身ということもあり、食べきれずに捨てられている野菜などを見て、それらを上手く利用することで困っている人を支援できるのではないかと考えました。

市民活動ネットワーク相馬では、困っている方々へただ食べ物を提供するだけでなく、効率よく自給できる方法も伝えています。農作業や調理をできる限り自分自身で行い、自給自足の方法を学ぶことで、新たな暮らし方を発見でき、更に食糧問題を解決する方法が見つかるのではないかと、畠中さんは新たな食糧需給の仕組みを考えています。

食べ物を提供するだけでなく、自分自身で調達できる仕組みなどを検討するところから始める。フードバンクとしての新たなあり方ではないでしょうか。

市民活動ネットワーク相馬では今後も地域に密着した様々な活動を行っていきます。活動にご興味のある方は、是非さとばたけ相馬アムウェイハウスへ足を運んでみてはいかがでしょうか。

特定非営利活動法人船引フォーラムは、2019年に任意団体として発足し、昨年2021年7月に法人化された団体です。地域のお年寄りの通院・買い物等移動支援(訪問D)や掃除・ゴミ捨て等の家事支援(訪問B)、困りごとの相談等様々なことを引き受けています。設立のきっかけは、東日本大震災時まで遡ります。理事長を務めている吉田さんは、被災当時は東京にいたため、地元福島での復興に携わることが難しくもどかしさを感じました。その気持ちをバネに社会福祉士の資格を取得、4年前に父親の実家があり、介護予防への取り組みを精力的に行っている田村市での活動を始めました。

船引フォーラムでは、介護予防・日常生活支援総合事業の通所型サービスB「ふれ愛サロン」を開催しています。サロンでは毎週月曜には趣味の創作活動と映画鑑賞会※1、木曜にはヨガや太極拳※2などを行っています。コロナ禍で多くの高齢者サロン等が中止の中、地域の高齢者の認知症の発症や身体能力の低下を懸念し、映画鑑賞会であれば鑑賞中は会話することもなく感染リスクが低いと考え、社会福祉協議会に相談し早速鑑賞会を開催しました。すると、参加者からは開催してくれて良かったとの喜びの声が多くあり、やはり活動は活発に行っていくべきと確信し、通所B事

業を始めたそうです。

「活動をすることで、目の前の人の困りごとを見過ごすことがなくなったのが、とても嬉しいですね。スタッフが何でも支援をするのではなく、利用者もできることはお互いに助け合うという、スタッフや参加する皆さんの成長を直に感じられることが嬉しいです。」と、吉田さんは言います。雨の日も寒い日も毎回楽しみに口コミで利用者が集まってくるようになりました。

将来的には、誰もが歩いて行ける距離に地域の方が交流できる居場所があって欲しいと吉田さんは考えます。今はスタッフ5名で運営をしており、1つのサロンで200～300mほどの範囲の住民を支援するのが手いっぱいなのが現状です。しかし、支援の手を必要としている人達は、田村市だけでもまだまだ大勢います。今後このようなサロンの立ち上げを悩んでいる方、活動に興味がある方は、是非船引フォーラムへご相談してみたいかがでしょうか。

※1 定員10名

開催時間は午前9時半～12時(趣味のサロン)午後1時15分から4時(映画鑑賞会)

※2 定員6名

開催時間は午前9時半～12時

災害から学ぶ防災

～頻発する自然災害に備える～

「東日本大震災」や「台風19号」、今年発生した「3.16地震」、国内各地で発生している豪雨など、いつ起こるかわからない災害。福島県も例外ではありません。そこで、県内外で災害時に活動をされていた4団体から、経験を通して感じていること等をお伺いしました。

過去の災害から学ぶことで、未来に発生する災害から身を守る術を探してみましょう！



一般社団法人
ふくしま連携復興センター

回答者

代表理事 天野 和彦 氏



Q1 これまでの災害支援活動で印象に残っていることを教えてください。

東日本大震災における被災者支援の活動においては、11年経った今も弊センターはその支援活動の歩みを止める事はできない。甚大な被害となった原子力被災12市町村等における被災者が、いまだ長期的、広域的な避難生活を継続せざるを得ない状況や、帰還困難区域解除となった地域においても様々な課題が混沌し複雑化しているからである。その活動のひとつひとつが個々の被災地域のフェーズに幾つも重なり存在している。また、緊急期においてこれほどの大規模災害への対応に追われながら、避難所や避難先での住民コミュニティを維持し被災者に寄り添い避難環境の整備や生活環境を充実させるため、県内外の行政、社協、NGOやNPOの力を借りながら連携しサポートした事は忘れられない。

Q2 今、福島の災害支援に必要なだと感じていることを教えてください。

災害が起こるたびに、これまでの災害の教訓は活かされたのかということが声高に言われる。そうではなくてむしろ、災害の教訓が活かされるような社会システムはどのようにあればよいかについて考えていく必要がある。私たち市民活動団体も災害が起こる度に、その都度ネットワークを組み情報共有を行ってきた。しかし毎年のように起こる災害に対して、迅速に対応するために、はまなかあいづをカバーする県域でのネットワークを常時稼働させていくことが重要ではないか。そのための準備をいま始めているところである。



認定特定非営利活動法人
茨城NPOセンター・コムズ

回答者

代表理事 横田 能洋 氏



認定特定非営利活動法人
日本NPOセンター

回答者

事務局長 吉田 建治 氏



Q1 関東・東北豪雨(常総水害)の際の主な被害状況を教えてください。

人的被害は死亡2名、重傷3名、中等傷21名(その後の災害関連死含まず)住宅被害 全壊53、大規模半壊1,575、半壊3,475、ヘリによる救助1,339人 鬼怒川堤防決壊による浸水が広範囲且つ長期間におよび半壊であっても住宅再建に多額に費用が必要になったが、被災世帯が多かったため義援金の配分が薄く、住宅再建をあきらめる人が多かった。常総に住む日本人が1割人口減少した。

Q1 これまでの災害支援を通して大切と思われることは何ですか？

災害支援は一分野ではなく、平時に対置する災害時という状態の違いでしかないということ。あらゆる分野に災害時があり、それぞれの災害フェーズにおいて多様なNPOに出番があると考えている。その考えのもと、地元のNPOが活躍できる出番をどう作り、コーディネートできるかを模索している。

南相馬市市民活動サポートセンター

回答者

事務局長 原田 淳子 氏



Q2 今後の災害支援に何があれば良いと思いますか？

「みなみそうま市民とNPOによる災害支援チーム このゆびとまれ」は、災害体験を通じ地域住民と災害について学び、人とひとが支え合うための心を育み暮らしやすい地域をみんなで一緒に考える場になるために寄与している。今後何処かで起きる災害に、私たちの経験が少しでもお役に立てたら良いと感じている。災害支援に大切なことは相手の立場になって考えることができること、そしてNPOが持つネットワークが重要であると思う。



Q2 災害支援を行って、こんなことをした方が良いなどのNPOや災害支援団体へ向けたアドバイスがあれば教えてください。

市外から、炊き出し、マッサージ、精神的ケアなど多様なボランティアの申し出があった際に行政だけではつなぎきれない部分がある。民間の中間支援がそのコーディネートをする。被災地が他地域とつながることになる。家をはなれバラバラになった被災者が互いの動向を知り自分はどこでどう生活再建するかを考えられる機会をつくるのが大切。炊き出しは、大きな避難所ばかりでなく、住宅被災が多く住民がバラバラになっている地区で行い、食料支援だけでなく被災者の再会と情報交換の場として行うほうがいい。



Q2 東日本大震災から今日まで災害支援活動で大きく変わったことは何だと思いますか？

良くも悪くもNPOやボランティアへの注目と期待が高まっていると思われる。また、災害時に活動した経験のある団体も増え、多様な活動が展開されるようになった。外からの期待が大きいと、振り回されたり大変になることもあるかもしれない。しかし災害支援は平時活動の延長にあるものなので、自分たちは何をすべきか、何ができるのか、一番大事にしたい人たちの声を聴き、まずは自分たちで考えてみるのが大事なのだろうと思う。そこが明確になれば、支援してくれる人も出てくるのだろうと感じる。



Q1 3月16日に発生した福島県沖地震による被災者への支援においてうまくいったこと、難しいと思ったことや反省点を教えてください。(今後支援される皆さんへのアドバイスなど)

被害状況が南相馬市の中でも鹿島区に集中(46.4% ※3,705世帯のうち1,722世帯が被災)。自衛隊による給水や災害ボランティアセンター等が立ち上がったが、地域の36%が高齢者世帯であるため自力で援助を求めることが難しい人は孤立を極めた。南相馬市市民活動サポートセンターとして平時より地域社協との連携や住民への社会参加の機会を推進するための活動から地域に馴染んできたことで、災害支援に移行しても違和感のない活動を行うことができた。また災害ボランティアセンターでは市内のボランティアに限るなど幾つかの制約があったため、県外NPOで技術系の団体との窓口や連携は混乱を極めたことから、県外のNPO災害支援チームとの連携窓口を、南相馬市市民活動サポートセンター運営団体である一般社団法人南相馬パブリックトラストで事務局を行うこととし、新たに「みなみそうま住民とNPOによる災害支援チーム このゆびとまれ」を結成した。役割を分担することで、災害ボランティアセンターでは地域の力を集結し、このゆびとまれでは県外からの専門性のあるNPO技術系アライアンスチームとの連携、入浴支援、生活再建相談を行った。反省点は、災害は急に起こるものでデータの管理などのフローを構築することができないまま活動に追われてしまったため、自組織での支援件数など正確な数字管理ができなかった。

水害、地震と災害の形はそれぞれですが、共通することもある反面、災害の形態や地域の特色、支援団体の特徴によって視点や感じることに違いもあります。是非、皆さんの日常のヒントにしてください。

日頃から「気を付けること」、「備えること」を意識して、防災に取り組みましょう!!

なお、このニュースレター掲載のために行ったアンケートの回答について、掲載しきれなかった内容や写真などを当センターホームページで紹介しております。是非、ご覧ください。

チャレンジインターンシップ 開講式を開催しました!

令和4年度チャレンジインターンシップの開講式が7月9日(土)郡山商工会議所会館で開催されました。コロナ禍により令和2年度から2年続けてのオンライン開催でしたが、今年度は会場とオンラインを結ぶハイブリッド方式で開催することができました。



開講式にはインターン生、受入団体が集まり、主催である福島県文化振興課の川名義則課長から、「日頃の勉強、部活、サークルでは体験できないような様々な経験をさせていただき色々なことを学んでほしい。また、皆さんの若い力をこれからの福島の未来のために役立てていただきたい。このチャレンジインターンシップがインターン生、NPO法人の皆さんにとって、相互に実り多きものとなることを祈念します。」、共催のコカ・コーラボトラーズジャパン株式会社CSV推進部コミュニティリレーション課の奥堀一世課長からは、「弊社はすべての人々にハッピーなひと時をお届けし、“価値を創造する”ミッションの実現に向けた持続的成長を実現するために、社会との共創価値向上に向けた取り組みを推進しています。その一環として、本事業のような地域が抱える社会課題に対して、地域の皆様との協働による課題解決に向けた取り組みの支援を行っています。地域の活性化を進めていくうえで大切なことは、地元を支えたいと願う一人一人の想いだと思い

ます。学生の皆さんにとってインターンシップの活動が実りあるものになることを期待しています。」とそれぞれに挨拶がありました。

その後、ふくしま地域活動団体サポートセンター所長内山愛美による「NPOの基本を学ぼう」やふくしまSDGsネットワーク会員安達忍氏による「SDGsについて」で、NPOの基本やSDGsについて学びました。会場で参加したインターン生の築田大地さんからは「学校で習ったことのないような様々なことを話し合うことができました。日本、東北、そして世界が抱えている問題に関して非常にわかりやすく話を聞くことができました。」との感想がありました。

アイスブレイクで緊張をほぐした後は、ワークショップでインターン生はNPOのイメージやインターンシップ活動に何を期待しているか、受入団体では、NPOの未来像、インターン生にどんな経験をしてほしいか等を話し合い、終始和やかな中にもこれからのインターンシップ活動に意気込みを感じ取れる開講式となりました。



令和4年度

ふくしま地域活動団体サポートセンター



講座予定



基礎講座

1

SDGs活用講座

SDGsを理解し、活用方法を2030SDGsカードゲーム体験を通して学ぶことで、地域課題の解決や自身の活動を考えるきっかけにしましょう。

2

助成金講座

補助金・助成金を本当に活用するには?本講座では、団体のミッション(目的)を達成するために必要な補助金・助成金の選び方や申請の手法、申請書の書き方を学びます。

3

NPO基本講座

NPO設立のために必要な申請書や必要書類など、手続きの基本的な方法を説明。実践者から団体設立時のお話や現状を伺います。

4

税務・会計講座

NPO法人は毎年事業終了後、3か月以内に事業報告書等の提出が義務付けられています。本講座では、参加者がNPOの会計の基礎を学び、自身の団体の現状や活動をしっかりと振り返る手法を学びます。

5

防災講座

地震や豪雨による水害など、様々な自然災害に見舞われる昨今。地域でのつながりを大切にしつつ、災害に備えるためには?その手法を学びます。

6

地域力講座

活気に満ちた地域社会をつくるためには、地方公共団体、市民及びNPO等の協働・連携による地域の活性化が求められます。数々の災害を経て注目されてきた「自助・共助・公助」の考え方や、支援力・受援力を高める方法を学び、地域力UPにつなげましょう。

経営者のためのゼミ～ふくしまNPO経営者ラボ～

NPOの経営者を対象に5~10人ほどの少人数対象の受講チームをつくり、ゼミ生同士で互いの課題を抽出。リーダーとして自身がどうあるべきか?組織に何が必要か?を決め、ゼミ生同士切磋琢磨します。ゼミ生と事務局で検討した内容をスケジュールに入れ、講師を招へいしたり、その後の振り返り、地域のニーズ調査などを行います。



開催日時など詳細が決まり次第随時WEBサイトやチラシでお知らせいたします。

講座は全て無料でご参加いただけます。お気軽にお申し込みください。

※上記講座は実施予定となっております。掲載内容については変更となる場合がありますのでご了承ください。

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大如何によっては開催の実施または方法が変更になる場合がございます。



近くに来たらぜひ
寄ってみて!



カフェビーンズ

運営：特定非営利活動法人さぽーとセンターぴあ

原ノ町駅前、南相馬市中央図書館の中にあるおしゃれな雰囲気のお店「カフェビーンズ」。メニューは常時種類豊富なカレーやパスタ(600円～)やサラダとごはんがワンプレートになったハンバーグプレート(5食限定)などが、お手頃価格で楽しめます。ハンバーグプレート(5食限定)をはじめ、カレーやパスタなど食欲をそそる定番メニューがずらり。また、デザートやドリンクのメニューも充実!メインのお食事とセットにすることもできます。施設利用で駐車場が2時間無料になるので、ゆっくりランチを楽しむことができます。今度の休みは本を片手にランチ&カフェをしてみませんか?

住所/南相馬市原町区旭町2-7-1 南相馬市中央図書館
TEL/090-2272-1061
【営業時間】 10:00～16:00
【駐車場】 有り(施設利用で2時間無料)
【定休日】 日・月曜日

- カレー、パスタ……………各種600円～
- ハンバーグプレート(5食限定)
サラダ、ごはん、ドリンク付き ……690円～
- 単品スペシャルカレー……………750円



助成金情報

チャレンジしてみよう!

NPO関連の助成金情報については当センターのウェブサイトをご覧ください。
<https://f-saposen.jp/category/subsidy/>



◇学術・文化・芸術・スポーツ、まちづくり、保健・医療又は福祉

2022年スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム～コミュニティスポーツによる健やかな暮らしと文化の醸成～ 【支援元/公益財団法人 住友生命健康財団】

- 助成対象/日本国内に活動拠点のある民間の非営利団体(法人格の種類や有無を問わない)で、団体としての活動実績があること。
チャレンジコース: 地域におけるコミュニティスポーツのチャレンジと、その後の自立・発展をめざすもの
アドバンスコース: 地域を超えたコミュニティスポーツの展開や、特定の地域におけるコミュニティスポーツの深化をめざすもの
- 申込期間/ 2022年8月22日(月)～9月22日(木)※当日必着 ●上限金額/チャレンジコース: 50万円まで アドバンスコース: 300万円まで
- 参考URL/ https://skzaidan.or.jp/sports_grant/

◇環境

2023年度環境市民活動助成【支援元/一般財団法人 セブン-イレブン記念財団】

- 助成対象/日本国内に活動の場と主たる住所を有するNPO法人、一般社団法人、任意団体(自治会、町内会含む)で、地域住民が主体となって行う自然環境保護の活動。
- 申込期間/ 2022年9月15日(木)～10月5日(水) ●上限金額/部門により異なる ※詳細は下記URLよりご確認ください。
- 参考URL/ <https://www.7midori.org/>

ふくしま地域活動団体サポートセンター

運営委託：福島県企画調整部 文化スポーツ局 文化振興課
運営受託：認定特定非営利活動法人ふくしま NPO ネットワークセンター

〒960-8043 福島県福島市中町 8 番 2 号 福島県自治会館 7 階
TEL.024-521-7333 FAX.024-523-2741
E-mail saposen@f-npo.jp URL <https://f-saposen.jp/>

◆県内の認証 NPO 法人団体 / 925 団体
◆認定 NPO 法人団体 / 22 団体 ◆特例認定 NPO 法人団体 / 0 団体 2022 年 8 月 1 日現在

編集後記

冷凍果物をソーダや冷たい紅茶に入れるマイブーム。【内山】心身ともにユルユルを激しく反省し、諸々鍛えたい。【齋藤(美)】スライムを切る音のASMRにはまっています。癒し。【穴戸】異常な暑さに比例するように髪が短くなっていきます。【村松】36年ぶりのトップガン、ド迫力!若き日が思い出された。【阿部】飯坂「仙気の湯」高温浴槽に挑戦!熱いというより痛かった。【歌川】残暑バテにはりんご酢の炭酸割り効果がきめんです。【遠山】今年も暑い!痩せたというより、やつれたね～と言われた!【齋藤(宏)】夕暮れに虫の声を聞きながら、ウォーキングしています。【本田】最近黄色いすいかを見かけなくなりました。懐かしい。【武田】